

主題：恐れずに信じなさい

聖書箇所：ヨハネの福音書 14章～17章

イエス様は、最後の晩餐の時に、もうすぐ自分が十字架にかかって死ぬことをお話になりました。そしてそれを聞いて動揺する弟子たちに、イエス様がいなくなった後も彼らがしっかりと信仰の歩みを保ち続けていくための4つの秘訣をお話になりました。それでも弟子たちは不安でした。その弟子たちに対して、イエス様は大切なことを教えて彼らを励まそうとされます。それがヨハネの福音書14章です。14章の1節に「あなたがたは心を騒がしてはなりません」とあります。心というのは、人のすべてを制御するところだから、心が不安だったらその不安は表に出てきます。イエス様は不安の中にいる弟子たちに対して、あなたはずっと不安の中を生きていくこともできるけれども、私はあなたが恐れることをやめることを望んでいるとおっしゃっています。もしあなたが置かれている状況にあって、神を信じることを選択しなければ、あなたは決してその中から抜け出すことはできません。神を信じるのが、あなたの人生において勝利の鍵であると教えておられます。そのために、我々は神様の命令を心に蓄えていくことが必要であると教えておられます。イエス様が私たちに与えてくださった8つの約束を見ていきましょう。

(1) あなたには天国が保証されている。(14章1～6節)

父の家にはあなたのために住まいが設けられていると言っておられます。しかも3節には、私はそこにあなたを迎えるために迎えに来ると約束されます。するとそれを聞いていた弟子の一人トマスは、どうやってそこへ行くのかと尋ねます。そこで、6節の「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。」という大切なみことばをお話になります。

我々のこの多神教の国においては、どんな宗教を信じていても究極的に行くところは同じです。でも、神様は道は一つだとおっしゃいました。イエス様しか私たちに天国に導く道はないと明らかにされています。もしあなたがイエス様を救い主と信じているならば、神様はあなたに永遠の命、天国を約束されています。そしてそこにあって、神とともに永遠を過ごすのです。

私たちの心はいろいろなことで騒ぎます。だんだん体が弱ってきたり、この社会を見て、この後日本はどうなっていくのか、不安だらけです。しかし、我々クリスチャンはそんな中にも、希望を持って生きるのです。神様は私に素晴らしい住まいを備えてくださっているということ覚えながら、今あなたが置かれている困難の中で、天国を見上げて生きていきなさいと言われていたのです。

(2) あなたには祈りが与えられている。(13・14節)

イエス様はこの弟子たちに対して、どんな時でもあなたは父なる神の前にあなたの抱えているすべてを持っていくこと、つまり祈ることができるということを教えてくださいました。

お祈りさえすれば自分の欲しい物は何でも手に入ると思っているならば、あなたはまだ祈りのことがわかっていません。我々は受験だ、交通安全だと、ずっと自分の欲しい物を手に入れるために祈りを捧げてきました。しかし、イエス様を信じた今、我々は祈りとはどういうものをしっかりと学ぶことが必要です。信仰が成長していくと、神様が望んでおられることは何かを考えて選択しようとしてします。お祈りも同じです。我々がしっかりと頭に入れておかなければいけないのは、私たちが神様の腕を曲げて力づくで自分の欲しいものを手に入れよう、もっと熱心に祈り続ければ、神様は私の欲しいものを手に入れようと思うのは間違っているということです。私たちは自分の欲しいものこそ最善のものであり、自分が求めるタイミングこそが最善の時だと思っていますが、それをご存じなのは神様だけです。私たちが、神様の最善に自分の思いを沿わせていこうとするのです。そして、私がそれを喜んで受け入れることができるように助けてくださいという祈りを神様は聞いてくださるのです。そんな神様に委ねることができる特権が我々に与えられているのです。私たちの責任は神様に委ねて一日一日しなければならぬことをなし続けていくことです。そういう正しい祈りをあなたが神様の前に捧げていくならば、神様はその祈りを通して、栄光をあらわしてください。なぜならば、みこころがなされるからです。ヨハネは「何事でも神のみこころにかなう願いをするならば」と言いました。何事でもあなたの欲しいものを願うならばとは言っていないのです。「これこそ神に対する私たちの確信です。」とあります。私たちが神のみこころを求めるならば、私たちの祈りは必ず聞かれるという確信を持って祈ることができるのです。

(3) あなたには聖霊なる神様が内住している。(15～27節)

聖書を見ると、イエス様は助け主をあなたに与えるとおっしゃいました。あなたを助けてくださる助け主をイエス様は父なる神様に求めてくださったのです。イエス様がいなくなっても、どんな時でも、どこへ行っても、この方があなたとともにいるとおっしゃったのです。私がイエス様を信じた後、一番感謝したのはこのことです。神様が自分とともにいてくださるという真実です。

そして、聖霊なる神様はあなたたちの教師だとおっしゃいました。弟子たちはイエス様のみことばを聞いていましたが、全部わかったわけではないのです。でも聖霊が来たら、私がおなたたちに教えたことがよくわかるようになりますとイエス様はおっしゃいました。皆さんもイエス様を信じる前に何度読んでもわからなかった聖書が、イエス様を信じた途端、わかるようになった経験がおありでしょう。それはあなたのうちに聖霊なる神様がおられ、その聖霊なる神様があなたに神様の真理を教えて下さっているからです。

そして、27 節であなたに平安を与えられます。世の中の人たちは、みんないろいろな不安を持っています。私たちクリスチャンは、みんなが悩むような状況にいても、喜びを持って生きていくことができるのです。これが神様の約束です。神様はこの世のいかなるものをもってしても得ることのできない、神様の平安を与えられましたのです。

(4) 豊かな人生があなたには約束されている。(15 章 1 節～)

ぶどうの木の話です。神様が農夫で我々がぶどうの木の枝です。農夫が望むことは、たくさんの実を収穫することです。そのために刈り込みをします。私が最初にぶどうの実がなっているのを見た時、これを全部残しておいたら、物すごいたくさんの実がなるだろうと思いました。しかし、刈り込みをしないと実が小さくなるのです。こうして切り込むことによって、大きな実がなるのです。あなたの人生にもいろいろな試練が訪れます。神様の前に「なぜ」ということがいっぱいありました。でも神様は決して間違いを犯される方ではありません。神様は常に最善をなしてください。さまざまな試練を通して、もっと神様に信頼する者に変えられ、我々の信仰が成長していくのです。

4・5 節に「とどまりなさい」という言葉が繰り返されています。あなたが豊かな人生を持つためには、どんな時でも、神様に信頼して従い続けていくことです。神様はあなたの罪を完全に赦し、あなたに救いを与えてくださり、あなたを神の子どもにしてくださいました。そして、この世の中の人たちがあこがれる、ありとあらゆるものを手に入れたとしても、絶対に持つことのできない豊かな人生を、神様はあなたに与えようとしてくださっているのです。神様は、あなたが望めばそのような人生を持つことをよしとしてくださるのです。どうしたらいいのか——。どんな時でも、神様のみことばを信頼して生きていくことです。

(5) イエス様はあなたの友 (15 章 13～17 節)

神の一人子であるイエス様が、ご自身の罪のない命をあなたのためにお捨てになったのです。それほど大きな愛であなたを愛されているのです。そして 14 節には、「わたしがあなたがたに命じることをあなたがたが行うなら、あなたがたはわたしの友です。わたしはもはやあなたがたをしもべとは呼びません。」とあります。イエス様はここであなたと神は親しい交わりの中にあると言われています。だからといって神とそれに従う者の関係が変わったわけではありません。しかし、神様はあなたを親しく見ておられるから、あなたに対して、神様が望んでいらっしゃることを、考えていらっしゃることを全部教えてくださいましたのです。

今、我々はみことばを通して、それを知ることができます。世の中がこれからどうなっていくのか、神様はあなたのことをどう思っているのか。神はあなたをどう扱ってくださるのか。どう導いてくださるのか、全部教えられているのです。あなたが喜びにあふれた日々を過ごせるように、神様はあなたを選んでくださったのです。

(6) あなたに喜びが与えられる。(16 章 20～22 節)

イエス様が私たちの喜びの源であることを我々に教えてくださいました。確かに、いろいろなことがあって、世は迫害し、あなたたちは泣き悲しむけれども、その悲しみは喜びに変わるとおっしゃったのです。人には痛み、苦しみとしか思えない状況にあっても、神様はあなたを喜びに満たしてくださいます。

子どもを産む時の話が 21 節に出てきます。子どもを産んだ時に、母親はその余りの苦しみのために、もう二度と産みたくないと思うのです。ところが、生まれてきた赤ちゃんを抱いた時に、その痛みや苦しみは吹っ飛んでしまう。イエス様は、今あなたたちは私が去っていくことを不安に思っているけれども、実はこれはあなたたちにとって大きな祝福だと言うのです。あなたたちの心が喜びに満たされ、聖霊なる神様がやってきて、私たちの心の中に大きな喜びを与えてくださる、その喜びで私たちを守り続けてくださる、そんな人生を歩めるように神様はしてくださいましたのです。

(7) あなたは勝利者である。(16 章 33 節)

今まで見てきたように、信仰の戦いを歩んでいると、ここまで聖書に忠実に生きていていいものか、ち

よっとぐらい妥協した方が世の中うまく渡って行けるし、楽だしというような誘惑を我々は経験します。この世の中は住みやすいところではありません。その時、我々は、「この誘惑に対して私は勝つことができません」、「降参」と白旗を掲げているのです。しかし、我々はサタンの罪の力に打ちかたれた神を信じる者です。我々も神様の助けによって、その罪の力に対して勝利するものなのです。

悲しいことに、現実には誘惑に負けることがあります。でも私たちはその時に悔い改め、神の前にまた出てくるのです。誘惑に負ける時というのは、往々にしてみことばから離れてしまうのです。私たちにとって、みことばというのは力です。誘惑があなたの扉をたたかならば、そのたたき前からみことばに立っているというのです。はっきり言って、それでも我々は負けるのです。しかし、覚えておくことは、私たちは敗北者ではない。我々は勝利者の側にいるのです。そして、そこから立ち直って、我々は主の勝利を信じて、信頼して歩いていくのです。

(8) イエス様が私たちのためにとりなしてくださっている。(17章9～24節)

ここを見ると、イエス様が使徒たちのために祈りを捧げておられることがわかります。まず1つ目は彼らが霊的に一致すること、そして2つ目に悪者から守ってくださるように、3つ目は彼らがきよめられるように祈っておられます。これは、この使徒たちだけではなくて、今の私たちに対しても同じことを祈ってくださっています。この使徒たちを通して救われてくる「将来の信者のための祈り」が20～24節に記されています。霊的な一致というのは、どんなに違う教理を持っていても、キリストという名のゆえにみんな集まって一つになりましょうということを教えているではありません。一人一人のクリスチャンたちが神様のみことばに対して、愛と従順をもってそのみこころを行っていくような者に変えられていくことによって、一つの輪が生まれ、そういう集まりはこの世に対して物すごい力を持つのです。

皆さんはいろいろな人からこんな質問を受けるでしょう。この世は宗教戦争ばかりではないですか。私たちが世の中に出て行って、世の中を改善することはできません。しかし、我々クリスチャン一人一人がみことばに従っていくならば、我々のうちにおられる神様は確実に私たちのうちに働きをなしておられること、この神様が真実なまことの神様であることを彼らは見るのです。そうすることによって、私たちは世の中に対して大きな証をなすのです。

そして24節、我々はキリストの栄光の中に招き入れられて、イエス様とともに、永遠を過ごすのです。イエス様は私たちが成長していくように、私たちが悪者から守られ、私たちがますますキリストに喜ばれる者に変えられるように祈ってくださっているのです。イエス様は今もあなたのためにとりなしてくださっているのです。

イエス様は最後の晩餐の席で、これだけのことを弟子たちに教えられた後、弟子たちを伴ってオリーブ山へと行かれました。弟子たちの恐れをわかっておられた神様は、彼らに対してすばらしい慰めと励ましの言葉を与えられました。だから心を騒がさずに神を信じ、私を信じなさい、そうしたらあなたのうちにすばらしいわざをなしてあげようと。神様を信頼して生きていくのか、それとも神様を見ないで自分の力で解決しようとするのか、どちらを選択するかは我々に課せられた責任です。